

編集後記

11月となり、朝夕はすっかりと肌寒くなりました。おはら祭りも無事に終わり、鹿児島島の短い秋からお鍋と熱燗がおいしい時期になります。季節の変わり目ですので体調管理には気を付けたいものです。

「誌上ギャラリー」は大山 勲先生の「錦繡」です。都城市の素晴らしい紅葉の写真で秋そのものです。

「論説と話題」は、9月1-2日に開催された九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会の報告です。9月1日は分科会、9月2日は特別講演が行われました。分科会では、医師会部門、検査・検診部門、高齢社会事業部門に分かれて討議が行われました。特別講演Ⅰは、日本医師会常任理事の松本吉郎先生の「医師会共同利用施設の将来展望」で、特別講演Ⅱは、原口 泉先生の「西郷どんとウィリアム・ウィリス～明治維新のカルテ～」でした。鹿児島市医師会がホスト役でしたので、懇親会において三反園県知事、池田県医師会長、上ノ町市医師会長の挨拶がありました。

「医療トピックス」は、医師会病院薬剤部の瀧下恭子先生に「新規慢性便秘症の治療薬について」概説していただきました。近年慢性便秘症の治療が話題となっております。

「学術」では、鹿児島生協病院循環器内科 春田弘昭先生の「冠動脈瘤を伴った、冠動脈の完全閉塞性病変の1例」と今給黎総合病院外科 小倉芳人先生の「当院外科における周術期医科歯科連携の取り組みの現状」です。貴重なご報告をありがとうございます。鹿児島大学呼吸器内科学講座助教授の町田健太郎先生からは9月11日の鹿児島市内科医会での講演『ガイドラインに基づいたCOPDの診療』を論文として寄稿いただきました。内科のみならず、会員一同に寄与する内容で感謝申し上げます。

医師会病院だよりは大塚博文先生の「婦人科から」で、婦人科の現状と今後の展望です。有村義輝検体検査室長の「検体検査室での緊急検査のあり方について」では、今後の緊急検査のあり方として在宅での臨床検査に焦点を当てて述べています。効率化・業務改善等今後の検体検査室の展望を述べていただきました。

「随筆・その他」は、古庄弘典先生の切手が語る医学 (No.216)「世界の医師・偉人・著名人No.7」です。武元良整先生の「『疲労・たちくらみ』『頭痛を訴える時』 - ビタミンB₁₂低下の可能性 - 」は、ビタミンB₁₂低下を予知できないか?という興味あるテ

マで報告していただきました。納 利一先生の「地域包括ケアシステムの理想実現への処方箋」では、地域包括ケアシステムの理想実現のための提言があり、「自分流生死哲学のすすめ」と“その後の三つの安心”を述べられています。幸せ哲学、地球調和等々人生を教えてくださいました。上ノ町仁先生の「旭川の温泉は昆布風呂」は、北海道胆振東部地震後の北海道での日本高血圧学会への参加の記録です。大変面白い内容でした。ありがとうございました。

「リレー随筆」は、鹿児島大学病院の増田圭亮先生の「島と都会と僻地と私」です。聖路加国際病院、下甕、垂水中央病院で経験したことをもとに経験を積み重ねることで最善の医療を見つけていきたいとまとめておられます。

「区・支部だより」は、10月1日の第1回清滝支部会を國東幹夫先生からの報告です。和やかな雰囲気での懇親会が想像できます。

「各種部会だより」は、9月11日の鹿児島市内科医会を山口昭彦先生からの報告です。町田健太郎先生の講演で、学ぶべきものが多かったとのまとめです。

「各種報告」では、理事会の概要、委員会報告、学校検診報告（心臓検診：野村裕一委員長、腎臓検診：前田 忠委員長、糖尿病：溝田美智代委員）、救急医療慣行行事（米盛公治理事）、医師会学校保健活動、医師会健康教育活動の報告でした。

「附属施設だより」は、医師会病院の診療・収支実績（8月）と検査センターの検査実績（8月）と収支実績（7月）が報告されています。会員の先生方のご活用をお願い申し上げます。

「会の動き」は、新入会員の紹介、会員異動、会長動静、医師会日誌、会員数・職員数が報告されています。

「鹿市医郷壇」は、兼題「苦情（くじょ）」で17句の投稿をいただきました。思わず笑いがでます。

「お知らせ」は、生涯教育のための学術講演会（11月・12月）、各コーナー原稿募集です。

「会長のつぶやき」は、「第3回支部長会総括～特に医師会病院について～」です。4議題の報告・感想でした。

あと2カ月で今年も終わります。平成の最後の年末となります。忘年会も多数控えておられることは存じますが、くれぐれも深酒と交通事故には気を付けていただきたいと思います。

（副編集委員長 帆北 修一）